

宮津市教育委員会の所管する事務事業の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書(令和2年度実施事業)から

意見書

笠沙知章(京都教育大学)

はじめに

本意見書は、令和2年度の教育委員会事務事業総括書について、宮津市教育大綱、宮津市教育振興計画に基づき、令和2年度市政資料集、令和2年度決算事業等説明資料、教育委員会事業総括書、並びにWeb上で公開されている資料などを参考にして、意見をまとめたものである。

宮津市では、平成23年3月に「みやづビジョン2011」を策定し、市の総合的な振興計画が示され、その中で「教育の充実と人材育成」が重要な基本施策とされている。このビジョンに基づき、宮津市教育大綱、宮津市教育振興計画が策定され、「教育のまちみやづ」を基本理念として総合的に教育振興に取り組んでいると評価することができる。

教育委員会の活動状況を見ると、例年通りの会議が開催され、また学校行事等への参加もなされている。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症のために、長期にわたって、休校が求められるなど、異例な対応が求められる状況であったが、感染症防止対策に万全を期して、入学式や各種行事への参加、学校関係者との意見交換を行うなど、学校の実態把握、情報収集に努められていた。コロナ禍における学校の状況を踏まえた教育委員会の活動が取り組まれていたと評価できる。

基本方針1「明日の宮津を創る子どもの育成」について

小中一貫教育を中核にして、就学前を含んだ学校教育の充実を図り、市が目指す人間像に向けた子どもの育成に取り組んでいる。小中一貫教育を推進することにより、質の高い学力の充実・向上に取り組んでいる。教育大綱、教育振興基本計画にあわせて、「学力向上プラン」を策定して組織的、計画的に取り組んでいる点に特色がある。決算事業等説明資料により、その取り組み、成果、課題が非常にわかりやすく整理されており、適切に点検評価がなされていると言える。

小中一貫教育については、「ふるさとみやづ学」を核としたカリキュラム構想が適切に編成され、子どもの探究的学習を促進する教育が展開されていると思う。体制の整備の段階から、教育の質、成果を高める研究、検証の段階に発展していると評価できると思う。このような取り組みは、ICTを活用するGIGAスクール構想の実現に向けた取り組みとしても展開しており、コロナ禍の制約にもかかわらず、活発な取り組みがなされ、実績を積み重ねている点は高く評価される。

GIGAスクール構想実現の取り組みは、GIGAスクール構想推進プロジェクト会議の取り組みが特筆される。校務におけるICT環境整備、授業におけるICT活用、教材等コンテンツの作成について、全市的な体制において、専門家からの指導助言を受けながら、研究に取り組んでいる。令和3年3月にまとめられた事例集を見ると、非常に活発に研究がなされ、実践が積み重ねられてきていることがわかる。学校のあり方、授業のあり方が新しいステージに入ったと言えるのではないかと、それは、学習指導要領、令和の日本型学校教育の目標、宮津市の教育大綱、教育振興基本計画の理念に合致しており、優れた成果が上がっていると評価できる。

GIGAスクール構想の教育環境の整備とともに、新型コロナウイルス感染症対策についても、「子どものための感染防止対策の強化」事業を実施し、保育所・子育て支援センター、学校・幼稚園、放課後児童クラブでの感染対策を強化し、子どもが安心して生活し、学習できる環境を整備されていたと言える。

以上のような宮津市で積極的に取り組まれている教育施策が、どのような成果を上げているのか、つまり子どもの育ちにどのような成果があるのかについては、慎重に時間をかけて検証していくことも必要であると思う。令和2年度では、学校は年度当初に長期の休校を余儀なくされた。再開後も、日常的に、マスク着用が必要となっており、このことが、子どもにどのような影響を及ぼしているのか、なかなか捉え難く、しっかりと子どもの様子を観察し、子どもの声に耳を傾けて、その影響を探っていくことが必要であろう。

またGIGAスクール構想の具体化に向けて、全的に活発な取り組みをされ、ICT機器の活用が目覚ましく進展したと評価できるが、そのことが、子どもの学びをどのように変えたのか、学

びが深まったのか、学びの質が高まったと言えるのか、じっくりと評価することが必要であろう。ICT機器の活用が教師の授業力、指導力を高めたと言えるのか、高めたとするならば、その力量をどのように評価することができるのか、今後、時間をかけて研究していくことも必要ではないだろうか。令和2年度は、教師の活用、その方法について研究されたと思われるが、今後は、子どもの学びに合った研究を進めて、GIGAスクールとは、どのような学校として発展させていくのか、検討していくことも必要ではないだろうか。

基本方針2「生涯にわたる充実した豊かな学び」について

生涯学習、社会教育に関わる事業については、その多くにおいて、コロナ禍の影響を大きく受けて、事業の中止や縮小を余儀なくされていた。感染防止を優先すべきだし、また不安がある中では、なかなか事業等に参加しにくいという事情もあると思われる。コロナ禍の終息は、まだまだ先になりそうであるし、たとえ、収束したという状況になったとしても、以前と全く同じような状態、心境に戻ることができるかは、不透明であろう。そのように考えるならば、「教育委員会事務事業総括書」の「課題・検証」では、「新型コロナウイルス感染症防止対策を図りながら」ということが、多くの事業について記載されているが、そうした対策は重要であるが、それとともに、事業のあり方を見直し、コロナ禍後の社会の中で、どのような地域のあり方を目指すのか、地域と学校の関係を目指すのか、状況を見ながら検討していくことも必要ではないであろうか。学校がGIGAスクールを目指すのであれば、地域社会もそれに応じた仕組みや取り組みを考えていくことも必要であるように思う。まずは、感染対策をしっかり進めることが重要であり、それを進めつつ、中長期的に、「生涯にわたる充実した豊かな学び」のあり方、地域社会のあり方を考えていただきたい。

基本方針3「誇りと愛着のある地域文化の保存・活用」について

天橋立の調査研究を進められ、新たな価値の発見、再評価がなされたという点は、宮津市の大きな財産になると思われる。天橋立世界遺産講座の開催、パネル展示、雪舟生誕600年記念フォーラムの開催など、宮津市の文化を醸成する活発な取り組みがなされたと評価できる。地域の歴史的遺産や文化に触れることで、どのような生き方をしていくのか、そのことを市民一人ひとりが意識していくことが大切であると思う。その意味で、基本方針2「生涯にわたる充実した豊かな学び」として取り組まれる生涯学習などの事業や基本方針1「明日の宮津を創る子どもの育成」として取り組まれる小中一貫教育における「ふるさとみやづ学」においても子どもたちにしっかりと考えさせる取り組みも重要になってくると思う。コロナ禍により芸術文化活動も停滞せざるを得ない状況であったと思われるが、そういう状況だからこそ、芸術文化の意義について考えることができるであろう。新しい芸術文化の営みが生まれることも期待したい。

今後の課題

令和2年度は、教育大綱、教育振興基本計画の最終年度であり、令和3年度からの計画を策定する年であった。5年間の取り組みの総括と、今後5年間の計画について、活発な協議がなされたものと思われる。令和3年1月から3月にかけて、総合教育会議が3回も開催されて、宮津市教育大綱、教育振興基本計画の策定の協議がなされていた。市長も交えて、活発な協議がなされたことは非常に重要であり、市全体でこれからの宮津市の教育やまちづくりに取り組む体制が整えられたと言える。「協働、挑戦、創造」「宮津の新しい教育」の創造「未来」というビジョンが、具体的でわかりやすく、子どもたちも含めた市民一人ひとりが関わることにより、これからの宮津を発展させていくという力強いメッセージが発信されたと思う。

最後に要望となるが、ホームページでの情報発信の改善をお願いしたい。総合教育会議の記録は、平成30年度までしか公表されていない。教育委員会会議の記録については、令和2年度と令和3年度が混在し、整理がされていない。多くの市民の参加が重要になってくるが、そのためには、情報発信が欠かせないことを考えると、ホームページの整備は早急に進めていただきたいと思う。点検評価の重要な資料、情報でもあるので、ぜひお願いしたい。